

阿木地区の古墳 ～中津川市内で最も古墳が作られた地域～

市史上巻によると古墳の数は阿木地区が36基、中津16基、坂本地区で4基、坂下10基、山口2基、苗木・付知・加子母方面には現在のところは見つかっていないということです。

古墳時代は恵那盆地を中心として古墳が多く見つかり、中津川市域では阿木地区が最も多く築造され繁栄のほどがうかがえます。ただし、今現在古墳等が現存するかどうかは不明です。

特徴

- ・前方後円墳がなく、ほとんどが後期の横穴式円墳。小規模で7世紀以降のものが大部分を占めている
- ・この地方での横穴式石室の採用は6世紀に入ってからで、前期古墳よりも後期古墳のほうが規模は大きい
- ・恵那地方の前期古墳の多くは「直葬形式」で阿木には15基ほど
- ・狐塚1号墳は直葬形式の古墳で、石槨※はない
- ・宮根の根6号墳は6世紀中葉のもので石槨がある
- ・宮ノ根1～8号、狐塚1号、4号、5号、八屋砥は、円墳

※石槨：石でつくった、棺を入れる外箱

